

シート 7

第 学年 組 番 氏名

※ 解答は、《解答欄》に書きなさい。

ポイント

- ・ 伝えたい事柄が明確に伝わるよう内容を整理する。
- ・ 語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にする。

次のA、Bの作文を読んで、あとの問いに答えなさい。

A

私は、先日、祖母から教わった畳掃除の仕方について説明します。

まず掃除機を①畳の目に沿ってていねいにかけます。畳の目にはホコリやダニのふん、死骸などが詰まっていることがあるので、ただほうきで掃くだけではきれいになりません。祖母が子どものころは、掃除機がなかったそうです。当時はどうしていたかという、お茶敷やぬらしてちぎった新聞紙を畳にまき、それにホコリを吸わせてから、ほうきで掃いていたそうです。昔の人の知恵には、舌を巻くばかりです。次に行うのが雑巾がけです。ただし、畳は湿気を嫌うので、基本的に雑巾はぬらしません。乾いた雑巾で畳の表面に浮いたホコリをぬぐうようにふきます。畳の汚れがひどいときや、カビが生えているときには、水またはお酢を入れた水でぬらして固く絞った雑巾を使います。そのときにもしごしごふがずに、目に沿ってぬぐうようにします。お酢の代わりにアルコール(エタノール消毒液)を使ってもいいそうです。最後に、しばらく窓を開けたままにして風を通します。祖母は、畳をよく乾燥させて初めて、掃除が完了すると言っていました。



掃除をしたあとのすっきりした畳は、とても気持ちのよいものです。ぜひ試してみてください。

B

会社を定年退職した祖父が、市営菜園を借りて野菜作りを始めた。四十年間仕事ひと筋、たまの休みには書齋にこもることが多かった祖父が、突然、これからは自然に触れる生活をしたいと言い出した。

当初、何を作るか迷っていた祖父であったが、結局、ぼくの好きなプチトマトと、父の好物である枝豆を作ることになった。

まずは種をまくのかと思っていたら、土作りに取りかかり、次に苗を植えた。園芸店の人に、初心者には種よりも苗から始めるのがよいと言われたそうだ。話し好きの祖母とは対照的に、身の回りの出来事をほとんど話さない祖父が、店員とのやりとりを熱心に語る姿を見て、今まで知らなかった祖父の一面を見た気がした。

祖父は、一日も欠かさず菜園に通った。がんばりのかいあつて、四月に植えた苗はみるみる大きくなり、六月にはプチトマトが、七月には枝豆が、どちらもたわわに実をつけた。特に、プチトマトは味が濃く、今まで食べた中で一番おいしく感じた。祖父にそう言う、うれしそう、照れくさそうな顔をした。そんな顔の祖父も初めて見た。プチトマト同様、なんだかとても新鮮に思えた。

祖父が始めた、自然に触れる生活は、ぼくたち家族が②新たな祖父に触れる生活にもなった。

【二ページ】

1 [A]の―線部①「暈の目」とほぼ同じ意味で「目」が使われているものを、次のアからエまでのの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 猫^{ねこ}の目 イ さいころの目 ウ 網^{あみ}の目 エ 台風の目

2 [A]の〔 〕の部分を見出しの手順に沿って三つの段落に分けます。次の表の（ ） a、bに入る言葉をそれぞれ五字で抜き出して書きなさい。

| 段落 | 手順 | 最初の五字 |
|-----|------|-------|
| 一つ目 | 掃き掃除 | まず掃除機 |
| 二つ目 | ふき掃除 | (a) |
| 三つ目 | 仕上げ | (b) |

3 [A]の〔 〕の部分には、書き手の感想に当たる文があります。その文の最初の三字を書きなさい。

4 [B]の―線部②「新たな祖父に触れる生活」を次のように表すとき、（ ）に入る言葉を、[B]の文中から十四字で抜き出して書きなさい。

（ ）が見られる生活

5 次は、[B]の作文についてのコメントです。（ ） aからcに入る言葉を書きなさい。

（ a ）を機に変わり始めた祖父の姿をむだのない表現で描^{えが}いている。祖父の行動を中心に、とろとろに自分の（ b ）を織り交ぜている。その文末表現は、「見た気がした」、「（ c ）」、「思えた」となっており、よくある「思った」一^{いっ}切^{けつ}倒^{たうたう}ではないところに工夫が見られる。

シート 7 正答例

1 ウ

2 a 次に行うの b 最後に、し

3 昔の人

4 今まで知らなかった祖父の一面

5 (例) a 定年退職、定年、退職 b 感想、思い、感じたこと c 感じた